

藤枝と東京の学生対流が紡いだ学びの連鎖

所属:藤枝支局

氏名:天野浩史

藤枝市は、静岡県中部に位置し、人口14万6,531人（平成28年12月時点）、JR藤枝駅前の再開発や網羅的なICT推進施策など、近未来的なまちづくりが進むと同時に、中山間地や農業資源の振興にも力をいれた地方都市です。平成29年度の地域実習から実質的に始まった本学と藤枝市との関係性は、今年度益々深くなったように感じています。

それを印象づける大きな動きとして、内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」に本学を責任大学とし、静岡産業大学、島根大学と連携した「フィールドから学ぶ産学官協働 3大学地域人材育成プロジェクト」（以下、対流促進事業）が採択され、東京圏に位置する本学学生と、藤枝市にキャンパスを構える静岡産業大学の学生が、相互にフィールド（豊島区巣鴨・藤枝市）を行き来し合い、互いに学び合うプログラムが始まりました。これを機に、教育・研究活動や人材交流の連携強化・促進を目的として、2018年7月17日に藤枝市と本学は包括連携協定を、静岡産業大学とは教育・学術交流に関する協定を締結しました。あらゆる機会に藤枝市での地域活動や人材交流を進める後押しとなっただけではなく、静岡産業大学が藤枝駅前のBiVi藤枝内に構えるBiViキャン内に本学のサテライトキャンパスを開設し、東京から藤枝市で学ぶ際、拠点として活動できる環境が整備されました。加えて、藤枝市と東京のパイプ役を担う現地法人として、一般社団法人ミライヌが設立され、本格的に支局としての活動が始まりました。

対流促進事業により、東京圏と地方の学生の相互の行き来と学び合いをつくるプログラムの開発を進めることとなりましたが、ここから、平成30年度に開発・実施されたプログラムと、その後生み出された効果について述べます。

まず、本学の学生は、第3クォーターに受講する地域実習だけではなく、藤枝市が重点施策としているICT推進施策と地域特性を学ぶ「短期プログラム」に取り組むことが可能となりました。2018年8月27日から31日まで行われた夏のプログラムには、地域創生学部3年生3名が参加しました。静岡産業大学鷺崎早雄学長の特別講義「ビッグバンからAIまで デジタル価値の超入門」や藤枝市ICT推進室の「ICTを活用したまちづくり」についての講義の受講、株式会社共立アイコムにてデジタルデバイスやアプリを活用した業務改善やビジネス支援の取り組みのヒアリングなどを行い、短期間でICTを活用した地域資源の活用、価値創造を学ぶ機会となりました。2019年2月25日から3月1日は春のプログラムとして、テクノロジーを活用したまちづくりと地域編集を組み合わせた、新たなプログラムの開発・実施を予定しています。



また、長期プログラムとして、2018年9月18日から10月28日の藤枝市での地域実習Ⅰ・Ⅲを履修した1年生8名、3年生3名を対象に、静岡産業大学との単位互換授業「しずおか学」の受講をはじめ、堀川知廣情報学部長のゼミ生との手もみ茶や産業大学OBOGとのキャリアトークイベントを体験しました。特にしずおか学では、東京で学ぶ本学学生と藤枝市で学ぶ静岡産業大学生が同じグループの一員として、チームビルディングの講義や静岡市や富士市でのフィールドワークを経験する機会となり、専門分野や地域文化が異なることによる触発が、互いに良い刺激になったように思います。実際、学生は教員が促さずとも互いに仲を深め、本学学生が東京に戻った後も連絡を取り合っています。また、同時にこのプログラムでは静岡産業大学生が本学の授業（地域実習Ⅱ）を履修する機会も設けられ、「東京留学」と称して今年度は静岡産業大学情報学部4年生1名が参加しました。本学学生と共に東京での実践的なマーケティングを学び、首都圏の文化や情報のスピードを体感する日々を過ごすことになりました。

一般的にこういったプログラムは、一過性の取り組みとして完結してしまいがちですが、今回の対流促進事業によって生まれた学びは、その後、緩やかな連鎖を紡いでいます。

夏の短期プログラム、長期プログラムに参加した学生Aは、藤枝市や焼津市のIT企業との出会いや自分自身が体験した地域学習を基に、地域学習アーカイブシステムの開発を東京に戻った後も探求しており、卒業研究として藤枝市のIT企業との共同研究ができないか、と自ら相談を持ちかけてきました。東京にいてもプログラミングやWEBサービスの開発は進めることができますが、豊富な地域資源が溢れる地方だからこそできる地域学習システムに意義を感じたようです。



また、長期プログラムで藤枝市を訪れた際、静岡大学地域創造学環1年生のヒアリングを本学の1年生が受けるという機会があったのですが、それがきっかけで、インタビューを行った静岡大学生4名が、2019年1月12日、13日に本学を訪れ、学内や巣鴨商店街、座・ガモールでのフィールドワークが行われました。その中で、本学学生も共にフィールドワークへ参加したり、静岡大学生に座・ガモールの取り組みをプレゼンテーションする機会をいただいたりと、新しい学

生同士の学び合いの連鎖が紡がれていきました。学びを通じて生まれた繋がりを、学びを通じて太く育てて連鎖を紡いでいくことが、これからの地域づくりに大きな可能性を持つと、これらの事例から感じています。

「関係人口」という、その地域に住む定住でも、観光としての交流でもなく、何かしらの形でその地域と結びつきを持つ人口の概念が生まれ、注目されていますが、「人口数」として量で測られてしまいがちです。藤枝と東京の学生対流のように、一つ一つの繋がりの「質」を育てていけるように、次年度以降も継続してプログラム開発とコーディネートを進め、学びの連鎖を紡いでいきたいと思います。また、その連鎖を藤枝や他地域にも還元し、地域づくりの促進をしていこうと思っています。